

木津川市地域公共交通網形成計画 計画事業の評価について（平成 27 年度～平成 30 年度）

平成 2 7 年 3 月に策定した、木津川市地域公共交通網形成計画（以下「1 次計画」という。）に基づく事業について、平成 2 7 年度～平成 3 0 年度における事業の実施状況、効果や課題等をまとめる。

1. 対象事業と評価シートについて

（1）「1 次計画」事業と 4 年間の取り組み

施策の柱	施 策	事業内容
1. 利便性の高い公共交通システムの構築	1. コミュニティバスの運行	・きのつバス実証運行事業 ・かもバス実証運行事業 ・やましろバス実証運行事業
	2. 乗継利便性の向上	・鉄道との接続を考慮したダイヤ改正
	3. 車両の利便性向上	・バリアフリー車両の導入促進検討 ・バス車両デザインの検討 ・その他
2. 市民にとって利用しやすく満足度の高い持続可能な地域公共交通対策	4. 情報提供の充実	・きづがわ公共交通だよりの発行 ・時刻表（のるなび）の作成 ・バス停留所デザインの検討 ・交通結節点における情報提供の実施 ・ホームページによる情報提供の充実 ・その他
	5. 利用機会の提供	・乗り物体験学習 ・1 日フリー乗車券の発行 ・スタンプラリーの実施 ・おでかけマップの作成 ・その他
	6. 市民意識の変革	・地域ワークショップ、座談会の開催 ・乗り方教室
	7. 魅力の発信	・観光施設へのアクセスサイン充実 ・急行バスと連携したPR

（2）評価シートについて

施策の評価に向けて、4 年間の実施内容などをまとめた評価シートを作成した。
シートの記載項目は以下のとおり。

【評価シートの記載項目】

・施策名：1 次計画で定めている施策名を記載（施策 1 ～ 7）
・事業主体：事業毎に定めている事業主体を記載
・事業関係者：各事業に関係する関係者を記載
・事業内容：平成 2 7 年度～平成 3 0 年度に実施した事業内容を記載
・事業目標と達成見込み：形成計画で事業毎に定めている事業目標を記載 平成 3 1 年度末の達成見込みを 3 段階で記載
・成果と課題：各施策の主な成果、及び次期計画に向けた課題を記載

2. 評価シート

■施策 1：コミュニティバスの運行

【概要】市民の移動手段として重要な役割を果たすきのつバス・かもバス・やましろバスを運行する。

【事業主体】 木津川市

【事業関係者】

奈良交通株式会社、株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社

【事業内容】

事業内容	H27	H28	H29	H30
木津地域においてコミュニティバス（きのつバス）を運行	○	○	○	○
加茂地域においてコミュニティバス（かもバス）を運行	○	○	○	○
山城地域においてコミュニティバス（やましろバス）を運行	○	○	○	○

【事業目標と達成見込み】

事業目標	年間利用者数 300,000 人（平成 31 年度）
目標達成見込み	×（平成 30 年度が 249,850 人であり、かつ大幅な増加が見込めない） 理由：高い目標設定の上で利用促進等に取り組んだが、減少傾向の抑制にまで至らなかった。利用実績を踏まえて目標値の再設定が必要。

※達成見込みは○：達成、△：一部達成、×：達成困難

【成果と課題】

主な成果等	■継続した移動サービスの提供
	・計画期間を通じて、木津川市コミュニティバスの運行を継続したことで、地域住民の移動手段を確保することが出来た。
	■路線の見直し、停留所の増設
	・利便性向上に向けて、平成 28 年度にかもバス（当尾線を除く）の加茂支所まで延伸・9 停留所新設、平成 29 年度にやましろバス山城線の渋川西まで延伸・1 停留所の新設を行った。
	■利用者は減少傾向
	・コミュニティバス全体では、減少傾向（平成 26 年度から 30 年度にかけて約 5.7% 減少）。
	・路線別では、 「きのつバス」は緩やかだが一貫した減少傾向 「かもバス」は平成 27 年度以降ほぼ横ばいだが、近年は通学線が増加、大畑線が減少 「やましろバス」は平成 29 年度まで増加していたが、平成 30 年度に減少

次期計画
策定に
向けた課題

■運行サービスの継続

・今後も地域住民の交通手段を確保すべく運行を継続する。

■利用者数の動向の要因整理

・路線別の利用者数の動向要因に関して、利用者の意見や、運行事業者の考え等をもとに整理する。

■地域や利用者ニーズに寄り添った運行サービスへの見直し

・利用しやすい運行サービスを提供するために、地域住民や利用者のニーズを継続して把握するとともに、交通事業者と連携して、対応可能な見直しを進める。

■新規ルートの検討

・居住地から医療機関や買物施設まで直接行けるルートや、市外と連絡するルートの整備要望がある。路線バスと競合しないこと、地域住民の利用需要の程度、運行経費等を踏まえて、新設のガイドラインを再度整理するとともに、交通事業者と連携して実現可能性について検討する。

■目標値の再設定

・コミュニティバス利用者数を目標値は、実績を踏まえて見直しを検討する。
・その際、地域によっては路線バスの運行サービスの拡充による路線バスへの転換もみられることから、路線バスの利用者数も考慮した目標値の設定が望ましい。

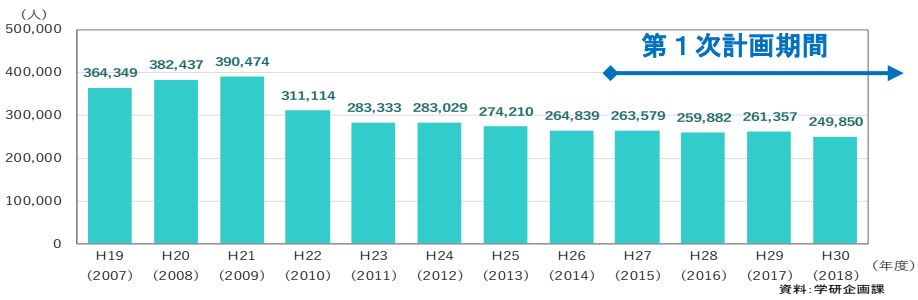


図 コミュニティバス全体の利用者数の推移

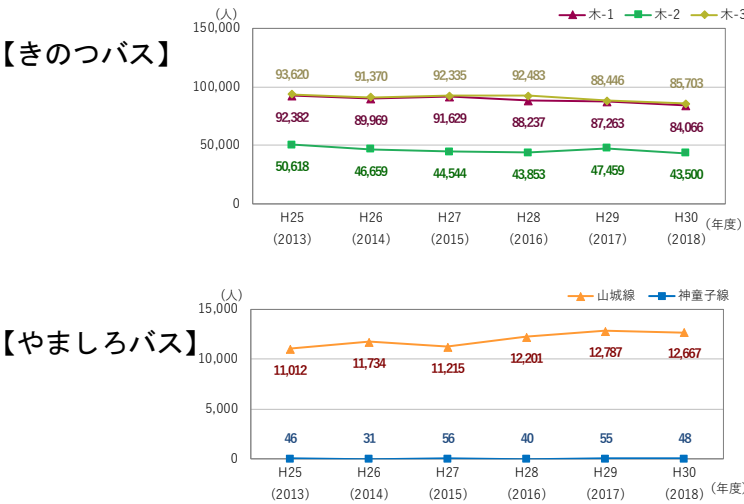


図 路線別利用者数の推移



■施策 2：乗継利便性の向上

【概要】ダイヤ改正等により、鉄道等とのスムーズな乗継ぎ環境を整備する。

【事業主体】 奈良交通株式会社、株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社、木津川市地域公共交通総合連携協議会

【事業関係者】 西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社

【事業内容】

事業内容		H27	H28	H29	H30
路線バス 関連	鉄道ダイヤ改正に合わせる等により、ダイヤを見直し（平成 28 年度、30 年度は鉄道ダイヤの大幅な改正がなかったため、一部路線のみ改正）	○	—	○	—
	利便性向上のために、一部路線の延伸、増便等を実施	○	—	○	○
コミバス 関連	鉄道ダイヤ改正に合わせる等により、ダイヤを見直し（平成 29 年度は検討の結果、見直さなかった）	○	○	—	○
	利便性向上のために、一部路線の延伸、増便等を実施	—	○	○	—

【事業目標と達成見込み】

事業目標	鉄道ダイヤ改正時に随時実施
目標達成見込み	○（市、事業者が連携して、必要なダイヤ改正等を実施）

※達成見込みは○：達成，△：一部達成，×：達成困難

【成果と課題】

主な成果等	■ダイヤ見直しによる鉄道との乗り継ぎ利便性の確保 ・鉄道（JR・近鉄）のダイヤ改正に応じて、バス事業者との協議の上で、必要に応じて路線バス、コミュニティバスのダイヤの見直しを実施。 ・鉄道が大幅にダイヤ改正を実施しなかった年度においても、利用者のニーズに応じてダイヤ改正を実施。
次期計画策定に向けた課題	■乗り継ぎ利便性の確保に向けたダイヤ調整の継続 ・引き続き、鉄道ダイヤ改正に合わせたバスダイヤの見直し等、乗り継ぎ利便性の確保に向けた取り組みを推進する。 ・また利用者のニーズ等を把握し、ニーズが大きい等、必要性が高い内容についてはダイヤ見直し等を検討する。 ■ダイヤ見直しでの留意点 ・鉄道とバス等の乗り継ぎを考慮したダイヤ検討の場合、生活移動を想定して重視する方向を念頭におくこと。 ・コミュニティバスはパターンダイヤで運行しており、覚えやすい等、利便性が高いことから、今後もパターンダイヤを維持すること。

■施策 3：車両の利便性向上

【概要】高齢者や障がい者が利用しやすいバス、親しみやすいバスに更新する。

【事業主体】 木津川市、奈良交通株式会社、株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社

【事業関係者】 —

【事業内容】

事業内容		H27	H28	H29	H30
路線バス 関連	市内の路線バス運行を担当する平城営業所において、ノンステップバス（大型、小型）を導入	○	—	○	○
	交通系 IC カードの全国相互利用サービスに対応（奈良交通路線バス、きのつバスおよびかもバス当尾線）	—	○	—	—
コミバス 関連	車両更新	○	○	—	○
	ノンステップバス（小型）4 台を導入	—	—	○	—

【事業目標と達成見込み】

事業目標	車両更新時に導入等を検討
目標達成見込み	○（市、事業者が連携して、必要な車両更新等を推進）

※達成見込みは○：達成，△：一部達成，×：達成困難

【成果と課題】

主な成果等	■車両の更新 ・路線バスは平成 27 年度、平成 29 年度～平成 30 年度、コミュニティバスは平成 29 年度に車両更新を実施。 ・きのつバスについては、ノンステップ率 100%を達成。 ■新たな交通系 IC カードを利用可能に ・路線バス及びきのつバス、かもバス当尾線は、新たに 8 種類の交通系 IC カードを利用可能にしたことにより、利便性が向上。
次期計画策定に向けた課題	■バリアフリー車両の導入 ・障がい者の利便性を図るため、路線バス及びコミュニティバスにおいて、バリアフリー車両の導入を検討。 ■車両ラッピングの検討 ・コミュニティバスの視認性を高めるために、車両のラッピングを検討。

■施策4：情報提供の充実

【概要】ホームページ、バス停掲示等、多様な媒体を活用して情報提供の充実を図る。

【事業主体】 木津川市、奈良交通株式会社、株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社、木津川市地域公共交通総合連携協議会

【事業関係者】 木津川市

【事業内容】

事業内容		H27	H28	H29	H30
路線バス 関連	奈良交通ホームページ等において、バスの情報発信やバス案内システムを運用	○	○	—	—
	バス位置情報サービスの実施	—	—	○	○
コミバス 関連	木津川市ホームページにおいて、情報を発信	○	○	○	○
	木津駅～山田川駅間のバス停留所のレイアウトを変更	—	○	—	—
	バス路線延長、バス停新設、ダイヤ改正等に合わせて、コミュニティバス時刻表を作成	○	—	○	○
	バス停ネーミングライツを実施 ☆	—	—	—	○
共通	公共交通だよりを毎月発行	○	○	○	○
	市公式の観光アプリ導入	○	—	—	—

☆第1期計画に記載していない事業

【事業目標と達成見込み】

事業目標	・公共交通だより：月1回発行 ・時刻表：年1回発行 ・バス標柱デザインの検討：検討数 215箇所 ・交通結節点での情報提供：市内主要施設で実施 ・ホームページによる情報提供：ポータルサイト開設
目標達成見込み	△（ポータルサイト開設が未実施。） 理由：市や事業所のホームページ、各施設に配架する公共交通だよりにて情報提供を継続しており、ポータルサイトの開設は他市町村の事例も含め検討が必要。

※達成見込みは○：達成，△：一部達成，×：達成困難

【成果と課題】

主な成果等	■ホームページ等による情報発信 ・市、奈良交通ホームページにより市外を含む広域の方に公共交通の情報を発信。 ■継続した公共交通だよりの発行 ・公共交通だよりを毎月発行し、利用状況や運行状況、沿線観光情報等の掲載により、公共交通利用の啓発や情報発信を実施。
-------	---

	■コミュニティバス時刻表の発行 ・利用しやすいコミュニティバス時刻表を作成して全世帯に配布したほか、公共施設や観光施設に配架することより、公共交通利用を促進。 ■バス停留所のレイアウトの変更 ・木津駅～山田川駅間のバス停留所のレイアウトを変更することにより、利便性を向上。 ■ネーミングライツによるバス停の副名称の追加 ・バス停（3箇所）に近接する企業等の名称を副名称として追加するネーミングライツ導入により、新たな運行財源を確保。バス停位置を把握しやすくなる等の効果あり。
次期計画策定に向けた課題	■公共交通だよりや時刻表の発行継続 ・公共交通関連の意識啓発は容易ではなく、引き続き公共交通だより、時刻表を発行。その際、観光や確定申告など、多様な用途で利用してもらうため、コンテンツに工夫が必要。 ・時刻表では、財源確保に向けた広告掲載の制度導入を再検討。 ■観光団体等、関連機関と連携した情報発信の拡大 ・観光団体との連携を強化し、国内外の観光客への情報発信方策を検討。 ・市内イベントのアクセス情報として公共交通でのルートを掲載する等、多様な機関・主体と連携して、公共交通利用を促す。 ■バス停ネーミングライツの継続 ・バス停ネーミングライツを継続するとともに、多くの事業者からの応募を募るために積極的な広報を推進。

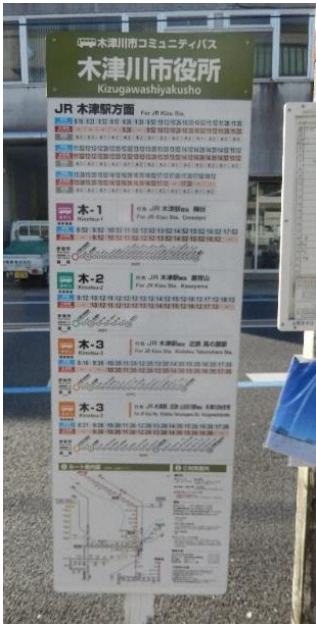


図 コミュニティバス停のデザイン変更

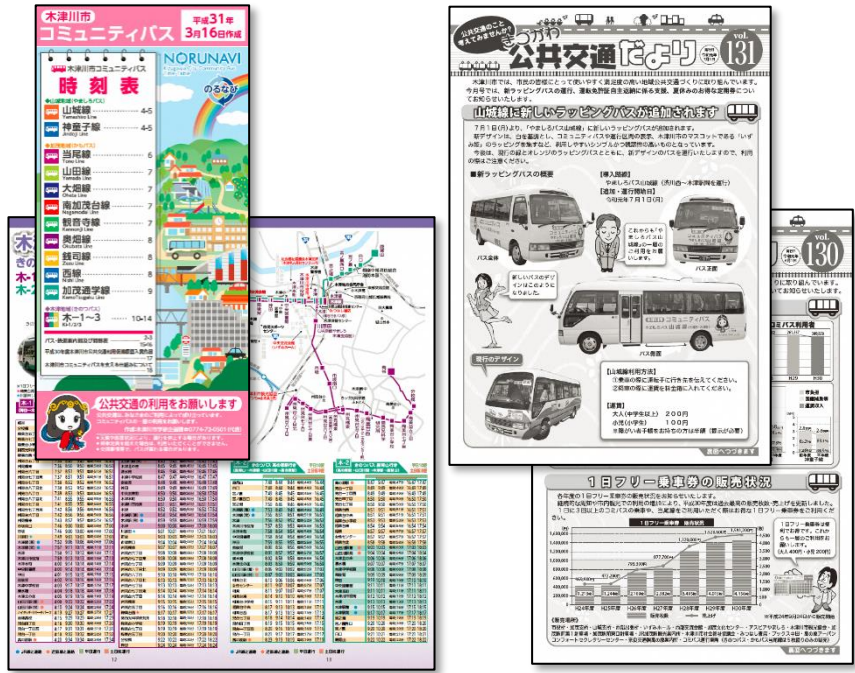


図 コミュニティバス時刻表・公共交通だより

■施策 5：利用機会の提供

【概要】日々の生活の中で公共交通を利用できるよう、様々なきっかけづくりを行う。

【事業主体】 木津川市、奈良交通株式会社、株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社、木津川市地域公共交通総合連携協議会

【事業関係者】 木津川市

【事業内容】

事業内容		H27	H28	H29	H30
路線バス関連	バス停上屋を新設 ☆	—	—	—	○
コミュニティバス関連	小学校と連携した乗り物体験学習を実施	○	○	○	—
	1日フリー乗車券の販売、販売場所の追加	○	○	○	○
	観光団体等と連携した利用促進（1日フリー乗車券の紹介、販売など）	—	○	○	—
	バス停上屋を新設 ☆	—	—	—	○
JR関連	棚倉駅一線スルー化☆	—	—	—	○
共通	公共交通利用促進をテーマとした標語の応募者に記念品として1日フリー乗車券を交付 ☆	—	—	—	○

☆第1期計画に記載していない事業

【事業目標と達成見込み】

事業目標	乗り物体験学習：市内小学校で年1回実施 1日フリー乗車券の発行：年間2,000枚販売
目標達成見込み	△（平成30年度は乗り物体験学習が未実施（ただし標語コンテスト実施）。1日フリー乗車券の平成30年度発行枚数は4,156枚。）

※達成見込みは○：達成，△：一部達成，×：達成困難

【成果と課題】

主な成果等	■バス停上屋の新設 ・州見台七丁目と州見台八丁目（両方西向き）にバス停上屋を新設。 ■1日フリー乗車券の販売 ・1日フリー乗車券を継続して販売することにより、乗継利便性の維持・向上。 ■乗り物体験学習の実施 ・小学校と連携して児童への乗り物体験学習を実施し、公共交通の利用促進、及びバス乗車時のマナー啓発等を図った。 ■観光団体等との連携 ・観光団体等と連携し、ツアーや施設案内時に1日フリー乗車券を紹介・販売。 ■記念品としての1日フリー乗車券の活用
-------	---

	・平成30年度に公共交通の利用促進をテーマとした標語を募集し、応募いただいた市内小・中学校の児童・生徒等に対し、1日フリー乗車券を記念品として交付。
次期計画策定に向けた課題	■1日フリー乗車券の周知及び販売場所等の追加・見直し ・今後も販売場所の案内や利用方法を周知し、利用者の拡大を図るとともに、更に購入しやすくするため、販売場所や販売方法の追加・見直しを検討する。 ■乗り物体験学習の計画的実施 ・市内小学校及びバス事業者と連携し、乗り物体験学習を計画的に実施。 ■観光施設や商業施設等との連携 ・小学校だけでなく、観光施設や商業施設、病院など、行き先となる機関・施設等との連携による利用促進策を検討し、実施する。 ■体験できる機会創出の拡大 ・敬老会等など市民による団体や、市主体のイベント等と連携し、コミュニティバスの体験機会を創出。 ■コミュニティバスの1日無料dayの検討 ・普段コミュニティバスを利用しない人に乗ってもらい、利便性を体験していただける機会として、無料で利用できる日の設定を検討。（事業者等との調整など、実施環境が整った場合）

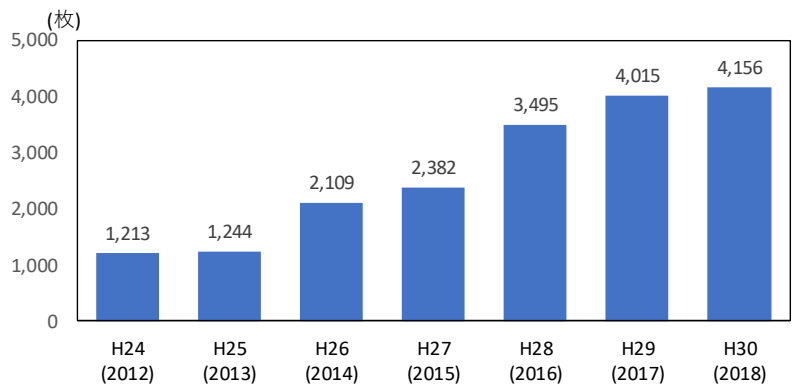


図 1日フリー乗車券の販売枚数



図 乗り物体験学習の様子

■施策6：市民意識の変革

【概要】ワークショップ等を通じて、利用意識向上への働きかけ、人材育成、地域ニーズを把握する。

【事業主体】 木津川市、奈良交通株式会社、株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社、木津川市地域公共交通総合連携協議会

【事業関係者】 木津川市

【事業内容】

事業内容		H27	H28	H29	H30
コミバス関連	ワークショップ・説明会の開催	○	○	○	—
	公共交通の利用促進をテーマとした標語を募集 ☆	—	—	—	○

☆第1期計画に記載していない事業

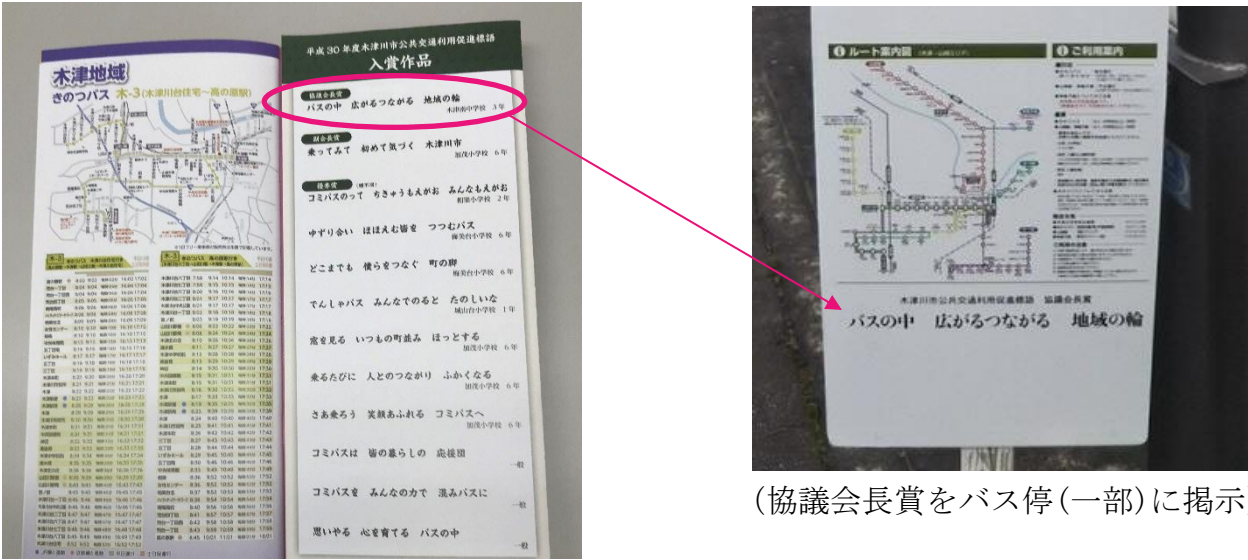
【事業目標と達成見込み】

事業目標	ワークショップ座談会の開催：年1回 乗り方教室：150人／年
目標達成見込み	△（平成30年度はワークショップ未実施であるが、標語コンテストを実施。乗り方教室は未実施） 理由：ワークショップ・乗り方教室ともに地域・学校からの要望や依頼がなかったため。

※達成見込みは○：達成，△：一部達成，×：達成困難

【成果と課題】

主な成果等	■ワークショップの開催 ・運行事業者の乗務員や市民、高齢者を対象としたワークショップの開催により、意見収集を実施。 ・住民を対象としたワークショップの意見からコミュニティバスのルート延伸及びバス停の新設を実施。 ■標語コンテストの実施 ・公共交通の利用促進に係る標語を市内小・学生、一般の方へ募集することにより、鉄道やバスへの関心・理解を深めるとともに、公共交通利用を促進。
次期計画策定に向けた課題	■ワークショップなどの開催 ・特にバス利用が少ない地域等において、ワークショップや利用方法の説明会等を開催し、意見収集を図るとともに、利用促進に取り組む。 ・高齢者による交通事故の増加を念頭に、高齢者に対する働きかけ、利用促進に取り組む。



（協議会長賞をバス停（一部）に掲示）

（時刻表に掲載）

図 標語コンテストの入賞作品、その活用



図 ワークショップの様子

■施策 7：魅力の発信

【概要】公共交通を活用した周遊を促進するため、市外からの来訪者等に対して情報提供を推進する。

【事業主体】 木津川市、奈良交通株式会社、株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社、木津川市地域公共交通総合連携協議会

【事業関係者】 木津川市

【事業内容】

事業内容		H27	H28	H29	H30
路線バス 関連	J R 奈良駅西口～浄瑠璃寺間の急行バスを運行、急行バスで利用可能な「世界遺産 1 Day Pass」を販売	—	○	○	○
	J R 奈良駅西口のりばの名称を「西口 5 番のりば」から「西口 1 5 番のりば」に変更（西口、東口でのりばを通し番号とした）	○	—	—	—
コミ バス 関連	かもバス当尾線において、急行バスとの接続を考慮したダイヤによる運行	○	○	○	○
	急行バスと連携して当尾地域内の回遊を案内するため、地域の寺社である浄瑠璃寺や岩船寺に案内板を設置。	○	—	—	—
	浄瑠璃寺、岩船寺、海住山寺のバス停に観光情報記載。 ☆	○	—	—	—

☆第 1 期計画に記載していない事業

【事業目標と達成見込み】

事業目標	観光施設へのアクセスサイン充実：5 箇所 急行バスと連携した P R：当尾線利用者 20,000 人
目標達成 見込み	△（観光案内板 2 箇所設置、観光案内・写真を掲載したバス停デザインへの変更 3 箇所、当尾線利用者数は平成 30 年度で 16,917 人） 理由：アクセスサインの充実は達成。平成 3 0 年度は台風・大雨による一部区間の運休などの影響により、当尾線の観光利用が減少した。

※達成見込みは○：達成，△：一部達成，×：達成困難

【成果と課題】

主な成果等	■急行バスとの接続 ・急行バスとの接続により回遊性を高め、コミュニティバスと急行バスの利用の相乗効果が発現。
	■世界遺産 1 Day Pass の販売 ・奈良から当尾地域への誘客に繋がる、お得な乗車券を販売。
	■のりば番号の変更による認識度向上 ・急行バスののりば番号を見直すことで、バス乗り場のわかりやすさを向上。
	■観光客の交通行動を支援する案内板等を設置 ・浄瑠璃寺、岩船寺に観光案内板を設置、また浄瑠璃寺、岩船寺、海住山寺のバス停を、観光情報を含めたデザインに見直し、観光行動の利便性を向上。

次期計画 策定に 向けた課題

■急行バスと連携した P R の強化

・更なる利用促進のため、イベントの発信や急行バスと連携した P R を強化。

■アクセスサインの改善

・観光施設へのアクセスサインについて、観光団体等の意見などを踏まえて、必要があれば改善を検討。



図 観光案内板（浄瑠璃寺、岩船寺）



図 コミュニティバス停デザインの見直し（浄瑠璃寺、岩船寺、海住山寺）